

	コード	名	称	区分	コード	名	称
事業名	123-1	都市間交流推進事業（大津市との交流）		会計	01	一般会計	
				款	02	総務費	
				項	01	総務管理費	
基本 施策	54	地域資源を活かして、他地域と交流する		目	07	文化振興費	
				細目	130	都市間交流推進事業	
行革大綱の重点事項番号				7	細々目	51	都市間交流推進事業
担当部課	コード	11300		担当者 氏 名	福島 礼子	連絡先	22 - 9621 (内線) 2115
	名 称	企画総務部企画課					

事務事業の概要(Plan)

対象(誰を、何を)		市内の民踊愛好団体、大津市民連 市民夏のにぎわいフェスタ(伊賀市民打ち上げ花火大会)来場者	
成果(どうする)		芭蕉ゆかりの地との交流を広げることができる。	
根拠法令・要綱等			
開始年度	平成 6 年度	関連事業	
終了年度	平成 年度		
H21 事業 内容	民踊若葉会と比自岐音頭愛好会のメンバーの参加により伊賀市民連を結成し、びわ湖大津夏まつり江州音頭総おどりに参加の予定であったが、当日の気象状況(大雨警報発令)により中止となった。		
	にぎわいフェスタに盆踊り大会を開催し、大津市民連を招待してイベントを盛り上げるとともに交流を図った。		
社会情勢 の変化等		平成20年度からは市民打ち上げ花火大会とともに開催している。	

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)		運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)	
1 建設用地		1 運営主体	
2 建設面積 (延床面積)		委託先	
3 規模・構造		2 配置人員	人
4 総事業費	千円	3 年間運営費	千円
		4 市内の 類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動 指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H20	H21	H22	H23
			目標	5	目標	5
	市民打ち上げ花火実行委員会(H19までに ぎわいフェスタワーキング部会)	回	実績	5	実績	5
	盆踊り大会出場者説明会	回	目標	1	目標	1
			実績	1	実績	1

成果 指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H20	H21	H22	H23
				目標	35	目標	35
	参加人数(大津市から伊賀市)	参加人数を増やすことにより、交流 が広がる。	人	実績	33	実績	26
	参加人数(伊賀市から大津市)	参加人数を増やすことにより、交流 が広がる。	人	目標	35	目標	35
				実績	42	実績	36

投入 コスト			H20 決算	H21 決算	H22 当初予算	H23 当初要求
	直接事業費計 (A)		(千円) 771	(千円) 755	(千円) 857	(千円) 855
	A の 財 源 内 訳	国庫支出金				
		県支出金				
		地方債				
		その他	0	0	0	0
		一般財源	771	755	857	855
	事業投入人件費 (B)		0.4人 2,880	0.4人 2,880	0.4人 2,880	0.4人 2,880
	フルコスト(A)+(B)		3,651	3,635	3,737	3,735

事務事業の評価(Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)			備考欄(特記事項)
必 要 性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業		
	個人の力だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業		
	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第3者にも利益が及ぶ事業	○	
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業	○	
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業		
	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業		
	国や県、民間が同様のサービスを提供している事業		
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業		
	民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業		
	受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業		
有 効 性	事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業		大津市とは、芭蕉ゆかりの土地であり芭蕉生誕350年事業を期に、江州音頭をとおして交流を続けている。
	【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】		
達 成 度	財政状況を考慮し、事業を休廃止した場合、市民生活への影響が大きい事業		【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】
	【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】		
効 率 性	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。		
	基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高サービス水準や対象を見直す余地がある。	○	
達 成 度	当初設定した計画を	80%以上100%未満	【計画に遅れが生じている場合、改善策】
	予算の繰越の有無	無	
	【予算の繰越がある場合、繰越の種別】		
効 率 性	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。		
	基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。		
	【事業名】		
	受益者負担を求めることができる事業である。		
	全体コストにおける負担構成は適正である。		
	コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。		

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況	
改善策	大津市は松尾芭蕉に縁の深い都市であるため交流を継続したいが、対象者の範囲が限られているため事業の見直しを検討したい。 しかし、伊賀市の意向だけで交流をただちに廃止するということではできないので、今後協議を行い、交流の見直しを検討したい。
昨年度の 取組状況	【状況】計画のとおり進んでいない
	【詳細】
大津市と協議の機会をもたなかった。	

今後の方向性(Action)

担当課長氏名	増田 基生	
事業の方向性	【方向性】	終期設定
	【理由】	
	今後、3年間を目標に現在の交流内容を見直す。	
現時点における課題、その他	現在の交流内容では一定の限られた団体での交流になっているため、内容を見直し継続するか、廃止するかを考えることが必要。	
課題、その他に対する改善策 (いつまでに、何を、どうする)	平成25年度末までに、廃止か継続か決定する。	